

学 校 指 導 課
担当者 学力向上担当 中田
内 線 5 5 7 9
直 通 076-225-1826

平成30年度基礎学力調査の結果

1 調査の目的

児童生徒の基礎的・基本的な知識・技能や活用力の定着状況、及び学習・生活状況について把握・分析し、学校における児童生徒への指導の改善を図る。併せて、教員の指導状況等を把握し、指導法の改善に役立てる。

2 調査の対象等

(1) 児童生徒に対する調査

○ 教科に関する調査

全公立小・中学校における次の学年の全児童生徒を対象に調査した。

ただし、調査の集計・分析については、各学校対象学年から無作為に1学級ずつを抽出して行った。

区 分	小学校第4学年	小学校第6学年	中学校第3学年
実 施 校 数	205校	205校	85校
実施児童生徒数	9,639人	9,686人	9,860人
対 象 教 科	国語・算数	社会	社会・英語
調査問題の範囲	小学校3年生までに学習した内容	小学校5年生までに学習した内容	中学校2年生までに学習した内容

○ 質問紙調査

教科に関する調査における集計・分析の抽出学級（各学校対象学年1学級）の児童生徒を対象に調査した。

区 分	小学校第4学年	小学校第6学年	中学校第3学年
実施児童生徒数	4,462人	4,974人	2,509人
調 査 の 内 容	学習に対する意識や家庭学習、生活習慣などの状況等に関する内容		

(2) 教員に対する調査

○ 質問紙調査

抽出した小・中学校における教員を対象に調査した。

区 分	小学校	中学校
実 施 校 数	70校	33校
実 施 教 員 数	1,100人	689人
調 査 の 内 容	授業における指導状況等に関する内容	

3 調査の日時

平成30年4月16日(月)

区 分	時限	小学校第4学年	小学校第6学年	中学校第3学年
教科に関する調査	1限	国語(40分)	社会(40分)	社会(45分)
	2限	算数(40分)		英語(45分)
質問紙調査	提出日までに、各学校の状況に応じて実施			

4 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査結果

項 目	小学校第4学年		小学校第6学年	中学校第3学年	
	国語	算数	社会	社会	英語
平均正答数(問)	16.7 /27	16.5 /22	20.0 /31	20.7 /33	16.7 /31
平均正答率(%)	61.7	75.1	64.4	62.7	53.9
前 年 度 比	-10.6	+1.3	-5.5	-2.0	-6.0

(2) 作問の工夫と調査結果の主な関連

昨年度の調査結果から明らかになった課題や新学習指導要領で求められている力を踏まえながら、活用を問う設問において、設問の難易度をあげ、児童生徒により深い思考が身に付くよう作問の工夫をした。

ア 小学校第4学年 国語

「話すこと聞くこと」の領域において、設問の場面設定を、昨年度の一人のスピーチから、今年度は、4人の登場人物による話し合いの場面に変更し、文章量を増やした。このため、児童は、話し合いの複数の内容を整理し、設問の題意に適切に答える必要が生じ、正答率の低下につながったと捉えている。

イ 中学校第3学年 英語

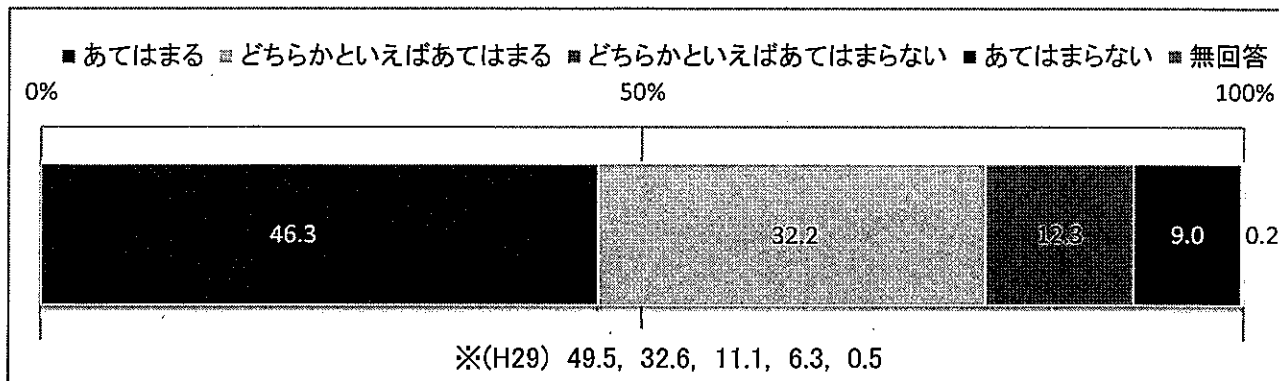
「聞くこと」の領域において、聞き取る情報を単文レベルから複数の英文を聞いて把握する設定にするなど、聞き取る情報量を増やした。このため、生徒は、昨年度よりも多くの情報の中から、必要な情報を整理して、設問に適切に答える必要が生じ、正答率の低下につながったと捉えている。

(2) 質問紙調査結果 (抜粋)

《小学校第4学年》

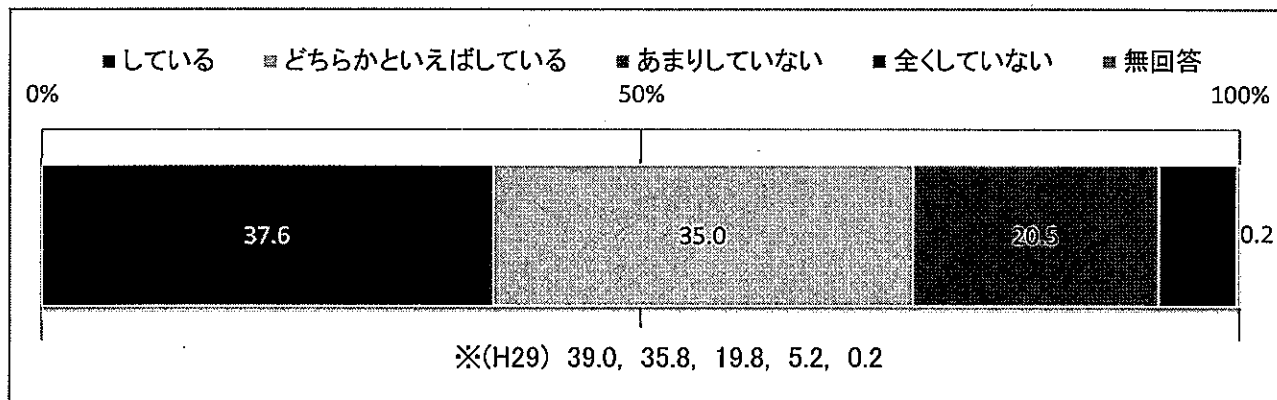
自尊心・規範意識等に関すること

○ 自分には、よいところがある



学習に関する感心・意欲・態度

○ 自分で計画を立てて勉強している



《小中学校教員》

教科等に関する指導

○ 児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている

